

登所できない感染症 ※主な感染症をあげてみましたので、病気の時は早めに受診し、医師の指示に従ってください。

弥富市立保育所 令和4年12月作成
令和5年9月改訂
令和8年4月改訂
令和8年10月改訂

○医師による意見書が必要な感染症(医師の方に意見書へ必要事項を記入してもらい保育所に提出してください。)

病名	主な症状と経過	登所の目安
麻疹(はしか)	高熱、咳、鼻水、くしゃみ、目やにで始まり、いったん熱が下がる頃口の中にコプリック斑が出現。再び熱が上がると同時に発しんが耳後部から広がる。	解熱した後3日を経過していること。
風しん(三日ばしか)	初め軽い発熱。同時に細かい発しんが全身に出る。首、後頭部、耳後リンパ腺が腫れる。3～4日で発しんが消える。	発しんが消失していること。
水痘(水ぼうそう)	発熱(出ない場合もある)や周りに赤みのある丘しんが、3～4日で次々に水疱になり2～3日で痂痂(かさぶた)になる。かゆみが強い。	すべての発しんが痂皮(かさぶた)化していること。
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	発熱(出ない場合もある)や耳の下、顎の下が腫れる。口をあけたり食べたりすると痛む。乳児では感染していても症状が現れないこともある。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから5日経過し、かつ全身状態が良好になっていること。
百日咳	1～2週間にわたり、咳、鼻水、くしゃみ、続いて特有の咳(コンコン、ヒューヒュー)が続く。	特有な咳が消失していること又は適正な抗菌薬による5日間の治療が終了していること。
咽頭結膜熱(プール熱)	高熱、咽頭痛、目やに、目の充血(結膜炎)	発熱、充血等の主な症状が消失した後2日経過していること。
流行性角結膜炎(はやり目)	目がゴロゴロして痛痒い。目の充血、目やに、涙目、まぶたの腫れと痛み	結膜炎の症状が消失していること。
急性出血性結膜炎	急性結膜炎で結膜の充血症状、強い目の痛み、目やに、角膜の混濁	医師により感染の恐れがないと認められていること。
腸管出血性大腸菌感染症(O157、O26、O111等)	激しい腹痛、下痢、血便、発熱は軽度	医師により感染の恐れがないと認められていること。 (無症状病原体保有者の場合、トイレでの排泄習慣が確立されている5歳以上の小児については出席停止の必要はなく、また、5歳未満の子どもについては、2回以上連続で便から菌が検出されなければ登所可能である。)
結核	初期は自覚症状なし、X線で発見。発熱、せき、痰、疲労感、体重減少	医師により感染の恐れがないと認められていること。
侵襲性髄膜炎菌感染症(髄膜炎菌性髄膜炎)	発熱、けいれん、意識障害、頭痛、嘔吐、頸部硬直	医師により感染の恐れがないと認められていること。

○医師の診断を受け登所届が必要な感染症(医師の診断を受け保護者の方が登所届に必要事項を記入し、保育所に提出してください。)

病名	主な症状と経過	登所の目安
溶連菌感染症	突然の高熱、のどの痛み、しばしば嘔吐。発疹、イチゴ舌。熱が下がると皮膚が膜状に剥けてくる。	抗菌薬内服後24～48時間を経過していること。
手足口病	手、足、口腔内に水疱ができる。発熱は軽度。口内炎がひどく食事がとれないことがある。	発熱や口腔内の水疱、潰瘍の影響がなく普段の食事がとれること。
伝染性紅斑(りんご病)	両頬に蝶のような形の紅斑。頬に発疹の現れる7日～10日前に微熱・風邪様の症状が現れることが多い(感染力の強い時期)。発疹が現れた時はほとんど感染力なし。	全身状態が良いこと。
突発性発しん	突然、高熱が3～4日続き、熱が下がると同時に全身に発しんが出る。熱が出なかったり、下痢や嘔吐を伴ったりすることもある。	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと。
ウイルス性胃腸炎(ロタウイルス・ノロウイルス・アデノウイルス等)	嘔吐、下痢(乳幼児は白色調であることが多い)、発熱	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること。
ヘルパンギーナ	発熱、喉の痛み、口の中に赤い発しん、のどの痛みなどで食事、飲水ができないことがある。	発熱や口腔内の水疱、潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること。
RSウイルス感染症	発熱、咳、鼻水などで発症し、多くは1週間程度で回復する。保育所児は1歳までにほとんどが初感染する。特に0歳児では入院が必要なほど重症化することがある。生涯に何度もかかることがある。	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと。
マイコプラズマ肺炎	かぜ症状(高熱3～4日・咳など)。咳が頑固に続く。発熱しない時もある。発しん、中耳炎を伴うこともある。	発熱や激しい咳が治まっていること。
带状疱疹しん	体の片隅に出る発しん、皮膚の痛み	すべての発しんが痂皮(かさぶた)化していること。
インフルエンザ(みなし陽性を含む。)	突然の高熱が3～4日続く。全身症状(全身倦怠感、関節痛、筋肉痛)を伴う。のどの痛み、鼻水、咳	発症した後5日経過し、かつ解熱した後3日経過していること。
新型コロナウイルス感染症(みなし陽性を含む。)	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、臭覚異常などの症状が見られる。無症状のまま経過することもある。	発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過すること。 ※無症状の感染者の場合は、検体採取日を0日として、5日を経過すること。

○保育所において特に適切な対応が求められる感染症(医師の診断を受け保護者の方が登所届に必要事項を記入し、保育所に提出してください。)

病名	主な症状と経過	登所の目安
伝染性膿痂しん(とびひ)	虫刺され等を掻きこわして、細菌がつき、水疱、膿疱となる。かゆみが強い。膿疱が破れ、新しい皮膚に広がる。	病変部を外用薬で処置し、浸出液がしみ出ないようにガーゼ等で覆ってあること。
伝染性軟属腫(水いぼ)	皮膚に、白い光沢があり中央が少しくぼんだ丸いいぼができる。おなかや手足、わきの下、わき腹、首、ひざにできやすく、こすれる部分に広がりやすい。数が増えとかゆみが出る場合もある。	水いぼを衣類、包帯、耐水性ばんそうこう等で覆ってあること。
アタマジラミ症	頭髮に虫体・卵。卵は7日で孵化(ふか)する。頭部のかゆみ	駆除を開始していること。
疥癬	かゆみの強い発しん(丘しん、水疱(水ぶくれ)、膿疱、結節(しこり)等)ができる。手足等には線状の隆起した皮しん(疥癬トンネル)もみられる。体等には丘しんができる。かゆみは夜間に強くなる。	治療を開始していること。
B型肝炎	ウイルスが肝臓に感染し、炎症を起こす。0歳児が感染した場合、約9割がキャリア(持続感染者)となる。キャリア化の割合は年長児では低下するが、5歳児でも約1割がキャリア化する。キャリア化しても、85%～90%は治療を必要としないが、残りの多くは思春期以降に慢性肝炎を発症し、その一部は肝硬変や肝がんに進展する可能性がある。	—